



日鶏協緊急速報

2025年1月10日
一般社団法人日本養鶏協会

鳥インフル早期発見・早期通報の徹底を！

(通報時のルールを遵守してください。)

- 同一の家きん舎内において、1日の家きんの死亡率が対象期間（当日から遡って21日間）における平均の死亡率の2倍以上となっている場合、家保への報告が必要です。
- また、死亡率が2倍未満の場合でも、
 - ①まとまって死亡している、
 - ②元気がない、
 - ③餌食いが悪い、
 - ④鶏冠や肉垂等のチアノーゼ、
 - ⑤産卵率の低下等といった通常と異なる症状が認められる場合にも家保への報告をお願いします。
- 通報が遅れた場合、被害が拡大し、周辺の農家にも多大な影響を及ぼし得ることも忘れてはなりません。
- 併せて、令和6年11月21日に開催されました「鳥インフルエンザ防疫対策緊急全国会議」における農林水産大臣メッセージ（下添）につきましても、改めてご確認の上、徹底をお願いします。



日鶏協緊急速報

2025年1月10日
一般社団法人日本養鶏協会

江藤農林水産大臣メッセージ（令和6年11月21日・緊急全国会議）

全国から500名を超える方々に御参加をいただきまして、誠にありがとうございます。過去最大の発生令和4年シーズンと匹敵するペースで、今、発生をいたしております。私の県でも本当に大変な経験をいたしておりますので、皆様方には更に緊張感を持っていただきたいという趣旨をもって、この会を開催させていただきました。



それでは、私の方から4点に絞りまして、お話をさせていただきます。

まず、**「危機感」を共有せねばなりません。**

今シーズンは「自分のところに来ても全くおかしくない」「来るぞ」という覚悟をもって、体制を組んでいただきたいと思います。自分のところには来ないだろうという楽観的な気持ち、これが一番問題になりますので、来てもいつでも対応できる体制を組んでいただきたいと思います。関係者の皆様方で危機感を共有して、できる限りの体制の準備をしていただくことをお願いいたします。

第二に、現場の「隙間」を埋める、「隙」を埋めるということでありま
す。これまでの発生農場の経験を生かしまして、飼養衛生管理のレベルをもう一段上げることが肝要であります。万全かと思われる農場でも「ここにも来るかもしれない」と、見逃しがちな「隙」があるということでありま
す。そこからウイルスの侵入を許してしまいますので、農場の「隙」を埋めるよう、御指導のほどよろしくをお願いいたします。

第三に、「再点検」です。「自分のところは新しいから、作って間もないから、最近検査したばかりだから大丈夫だろう」ということではなくて、今日この機を生かしていただいて、もう一度再点検をお願いしたいと思っ
ています。特に大規模農場や過去に発生した農場では、発生した場合の影響や発生リスクが高いというふうに考えられますので、もう一度、よろしく
お願いいたします。何度点検をしても、それで十分ということはないと
いうふうに考えていただきたいと思っております。



日鶏協緊急速報

2025年1月10日
一般社団法人日本養鶏協会

第四に、残念ながら発生した場合、そこから更に周りに伝播させない、
拡げないということが大変肝要であります。現実には、どんなに完璧な防疫体制を敷いていても、人間のやることでありますし、それに虫や動物、様々な原因が考えられますから、完全に防ぐということは不可能だというふうに考えていただくことが、私は適切ではないかと思っております。そして、発生しても、今申し上げたように、1か所で止める、そこで終了する—その地区ではですね。地域に拡げないことが最重要であります。事前の防疫演習、これはしていただいていると思いますが、速やかな殺処分、そして防疫措置をお願いしたいと思っております。

令和4年シーズンのように鳥インフルエンザが大発生すれば、卵の需給や価格、国民の皆様方の食卓にも大変な影響を及ぼすことがあります。そして、発生農場におきましても、それから再開するのに大変御苦労することになりますから、そのあたり緊張感を持っていただいて、「防疫対策」、何度も申し上げましたけれども、とにかく「防疫対策」「防疫対策の徹底」これをお願い申し上げます。

どうぞ皆様方、これからがまさにトップシーズンに入ってまいりますから、緊張感を持って御対応いただきますように、重ねてお願い申し上げます。御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

【高病原性鳥インフルエンザ対策本部 事務局】

[一般社団法人 日本養鶏協会](#) 担当：石井、阪本、利根

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）